

2018年1月

住宅事情と木造住宅の今後

経営学部 経営学科 幡鎌ゼミ

学籍番号 B4R11134 氏名 中條完弥

【卒業論文概要】

私がこのテーマを調べようと思った背景としては、私の就職先が住宅業界（職種は営業職）なので、それについて深く調べてみたいと考えたからである。また衣食住の一つである住宅に関して今後どのように変化していくのかということに興味を持ちテーマを設定した。

本論文の目的としては、業界研究をして全体的な住宅業界の現在と過去を詳しく調べて、そこからこれからの未来の住宅業界が今後どのように変化していくのかを考察し、そしてそこからさらに気になった木造住宅についての詳しい研究を行い木造住宅の今後について詳しく調べていきたい。

研究の方法としてはネットや、書籍の情報、また自分がバイトさせていただいている、就職先での情報などを研究し、自分の考察をまとめて、結論としていきたい。

まず初めに住宅業界全体の規模や現状を調べた。業界としてはとても大きく10兆2162億円となっていた。これは業界ランキングでは20位後半程度となっている。しかしこれより小さくなっていくことはないのではないかと考察した。次に業界のことを知るためいくつかの住宅業界での主だった企業を調べてみた。その中で家のタイプとして土台や柱となる材料に注目するようになった。木造・鉄骨・鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造・コンクリートブロック造などがある。中でも主流なのが木造か鉄骨である。ここまで調べていき特に興味を持ったのが木造であり、木造と一口に言っても多く種類の木やそれに対する使い方などもあるのではないかと考えた。

そこで木の種類やそれぞれの特徴を調べ、さらに会社ごとにどの種類の木を使っているのかを調べてみて現在の木造住宅の傾向などを調査した。その中で各社での家や木造の住宅として利点、欠点を見つけ出した。結果としては自分の就職先であるヤマダウッドハウスの住宅はコストパフォーマンスが高いことが一番の売りであることが分かった。住宅の柱や土台にはヒノキという丈夫な木の集成材を利用しており、またティンバーウッド工法という柱をつなぐ工法も積水ハウスにも似たようなものがあるがヤマダウッドハウスのほうが安価で提供できる。このような戦略をSWOT分析にまとめて詳しく分析して傾向をまとめて結果としたい。